

企画力と技術力の両輪で 独自製品を続々創出



マシンシャッター

オートパンチャー

アイセル株式会社

**工場改革で、分業化表現
技術力と機能性を引き出す**

伝動機器、ベンディング、パンチング、精密機器、精密金型……等分野別に専門グループを構成。それぞれの持つ知識、技術力、ノウハウを、グループ間の連携により相互に活かすことで、幅広い異業種分野で活躍する商品を展開中のアイセル。

「ものづくりの現場は常に進化し続けなければならない。社員の作業効率を上げるためにも、一人で作業が完結する現場づくりから」と、平成18年、代表取締役役に就任した望月貴司社長がまず着手したのが、この分野別の専門グループをつくるという「工場改革」だった。若手社員らのものづくりに対する自覚を促すという狙いもあった。そんな望月社長の目論見は的中、この時の改革が、若手社員一人ひとりの能力、技術力向上へとつながっていく。

知的所有権が400余点

アイセルは、特許、意匠等の知的所有権を400点余り取得している。顧客の要望を独自のアイデアとして取り込む企画力と、それらを製品化させる技術力とが共に高次元で両立していればこそ。例えば、東京日本橋の地下鉄駅構内のPC展示スペース・「Mediaspot・DELL Real Site」の夜間用シャッター。夜間でも陳列物が見える「広告機能」と金槌で叩いても壊れない「安全性」とで、次世代のカバーシステムとして注目されている。「中が見え、軽く、安価なもの」といった顧客の要望に応え、本来、機械・装置のカバーとして作られたマシンシャッター&ガードシステムを応用したのだ。今後、家具・インテリアの展示会にも出展する予定だ。

また、新規分野として太陽電池関係にも力を注いでいる。太陽電池で使用される様々なフィルムを加工する装置を開発。従来、困難とされるフィルムにも高精度な加工ができ、好評を博している。

同社ではこの他にもクレジットカードの打抜き機や、自動車用マフラー、各種タンク等の製造に使用されるベンディングロール、ナノ単位の位置決めを可能にする超精密ローラーガイド等幅広い分野で活躍する製品を多数有している。

**アイセルブランドの浸透目指し、
社内報創刊**

「現在、当社の海外売上高は10

15%。これを30%にまで上げることで、経営の安定化を図りたい」と望月社長。そのためには、現地生産が望ましいと考えつつも、「技術的なフオーローができる人材がいらない限りは無理」と、韓国や台湾のメーカーとタイアップする方法を選択。

最近では「アイセルブランドの浸透」を課題に、社内報を創刊、社内外への配布を始めた。「顔の見える企業」とすることで、新たな新製品のアイデアを抽出できる環境を社内外に持ち、さらなる発展を目指す。

主な事業内容

紙・プラスチック・フィルムの抜き、切断、塑性加工、溶接装置・摩擦締結カップリング・特殊精密金型、マシンシャッター・シャッターガードの設計生産等



望月貴司さん
代表取締役

アイセル株式会社

Company Profile

住所 / 〒581-0068
大阪府八尾市跡部北の町1-2-16
創業 / 昭和43年6月
設立 / 昭和50年4月
資本金 / 9,880万円
従業員 / 135名 (平成21年1月現在)
TEL / 072-991-0450
FAX / 072-994-7593

ISO 9001
ISO 14001

全国19
関西19

<http://www.isel.jp/>